

# 山元町議会議員のなり手不足 対策調査特別委員会 議事録

日時：令和7年1月11日（火）

午後2時～

場所：第1・2委員会室

## 出席者

委員名  委員長 伊藤 貞悦  副委員長 竹内 和彦  委員 大和 晴美  
 委員 渡邊 千恵美  委員 岩佐 秀一  委員 斎藤 俊夫

## 会議次第

### 1 開会宣言【委員長】

### 2 連絡

※ SideBooksの05\_特別委員会 議会議員のなり手不足対策調査特別委員会 フォルダ及びチームスに次第・資料を格納します。確認をお願いいたします。

### 3 所管事務調査

#### (1) 山元町議会議員のなり手不足対策に関する調査について

① スケジュール

② (仮称) 町民会議について

【委員長】令和8年1月まで検討を終了する方向性でいいか。

(了承の声あり)

【委員長】調査項目はどうか。

【事務局長】調査項目は2回目の開催なので、本日固められればと考えます。スケジュールも同様に資料に落とし込んでいく必要があります。④調査、研究事項の選定は、各委員から御意見をいただきたい。⑤町民会議は大和町の例で入れています。⑥アンケート調査は、亘理町で実施したことで入れています。結果⑧報告書を作成し、⑨パブリックコメントを受け、⑩議会への報告を最終とすることの内容を協議いただきたい。

【斎藤委員】本町では締め切りまでの時間的余裕はない。大和町等の例を参考に進めることは前回了承されている。まず始めるために1月に補正予算を取って進めるためには、スケジュールを全部埋めていくことは難しいが、予算確保を先にされたい。スケジュール自体は大和町を参考に埋めていくことがいいと思う。

【事務局長】スケジュールを委員が考えるのか、事務局が考えるのか。大和町は事務局が主導した、亘理町は特別委員会が主導した。その中で、本町ではどう考えるべきか。

【委員長】前回、令和9年1月の改選までに整えるため、逆算すると令和8年1月までに期限を定める必要があると思ったが、その理解でいいか。

【斎藤委員】新年度から動くのであれば打ち合わせを重ねるのはいいと思うが、新年度からでは間に合わないという問題意識。相手もあるし時間もない中では、1月補正から初めて、スケジュールは事務局に任せしていくしかないのではないか。

【秀一議員】12月補正は3月末までの部分。費用を要するのは視察と町民会議。視察はしないとのことなので、町民会議をスケジュール3月まで組んでもらうしかない。

【委員長】議長とも相談しているが、12月補正は必要額を出してもらって、1年間程度のスケジュールは事務局で組んでもらうのでいいのでは。

【事務局長】岩佐委員からの意見のように費用面のことを出してもらったので、委員間で協議して何を必要とするということを話してもらいたいが、各委員からスケジュールは事務局でということであれば、次の会議までに考えることでいいか。

【渡邊委員】町民会議の構成員をどう募集するのか。委員が勉強したい、視察したいとなった時の予算はどうなるのか。見えないことがある。

【委員長】すべてもむ時間的余裕はないのではないか。

【渡邊委員】どういうことをいつまでやってもらうということを決めるのは難しい。

【斎藤委員】大和町の例から組んでもらい、有識者を呼ぶなり、ワークショップを重ねるなりして、補正予算から始めるべきと前回発言して、皆さん了承している。

【大和議員】大和町のスケジュールは一年どころではないので同じようにはできない。河村先生にお世話になるのであれば、その予定もあるだろうし。町民会議もメンバーだけでやるのか、それとも大和のように議員も入る2部構成もある。

【事務局長】大和町はおそらくは議論を重ね、進めていくことで方向性が出来上がっていったものと思う。事務局で考えることはできるが、委員が考え、必要不要の取捨選択が必要かと思う。事務局でするとすれば、その後、委員会でもんでもらえればありがたい。

【委員長】スケジュールは事務局で組んでもらうことで進めていいか。

(了承の声あり)

【委員長】そのスケジュールを次回確認することとしたい。②特別委員会開催は月一回では少ないと思うが。

【斎藤委員】前回話したように軌道に乗るまでは回数を重ねる必要がある。事務局には後発の利を活用して組んでもらいたい。

【渡邊委員】定例会、委員会等がある中、事務局と特別委員会が連携して進められればいい。

【委員長】最低でも月一回でやっていく必要がある。

【渡邊委員】全員協議会の後だとかやっていけばいい。

【秀一議員】総務の委員が多いので、その時に開催するとか。そういうスケジュールの組み方がいい。

【委員長】町民会議にも出なければいけないので、そういうことも考えるといい。

【秀一議員】当初予算ではなく補正予算に計上も考えられるのではないか。

【斎藤委員】理想は当初予算だが、なかなか難しい。なり手不足だから周知期間は必要だが、1年でまとめるのはなかなか難しいのではないか。

【事務局長】最終的なリミットを決めていただければ、それに合わせて事務局で予定を組む。

【渡邊委員】9月では遅いかな。6月かな。

【斎藤委員】町民会議の構成員は、次の議員候補者も考え、町民会議よりゼミナールという名称がなじむような気がする。

【事務局長】町民検討委員会の考えに移ったが、その時間を確保するため素案を作成する方向でいいか。

【委員長】できるだけ町民の声を聴く時間を確保したものがいいというのが皆さんの意見。5年後10年後の未来に向けて、定数や報酬も隠れた検討項目なので、将来を見据えていきたい。

【竹内委員】町民会議の構成団体全部数えると16名になるが。

【事務局長】団体は事務局が例示をしているものです。

【班長】議会の付属機関となるため地方自治法に基づいて条例化し報酬を支払う必要がある。全国町村会で付属機関の整理を行った経緯もあり、法に従つたもので対応したい。

(15:03休憩 15:15再開)

【委員長】亘理町議会の報告書を配付しました。

【班長】13ページに亘理町議会議員報酬案31万円の記載があります。

【齋藤委員】亘理町の例を見ると町民会議もゼミナールも有識者招致もなく、独自に作ったものになっている。これならば、条例化や補正予算も必要なくなるのではないか。

【秀一議員】報酬が安いからなり手がないことを亘理は言っている。

【委員長】亘理町は定数減の選挙で欠員が出た。

【大和委員】アンケート調査にいろいろ書いてある。

【事務局長】議員全体で視察に行って2町を見て、進んできたが、路線変更するのであれば、全協への報告のために委員で亘理町に行って話を聞くということもあっていい。

【齋藤委員】亘理町を踏襲するとなれば、スケジュールも予算も条例化も楽になる。

【委員長】進め方は、どうか。

【齋藤委員】亘理町を見るまでは、二町の先進地視察を参考にということがいいと思っていたが、これを見ると方向転換してもいいのでは。条例化も補正予算も必要なくなる。

【渡邊委員】これプラス、先生の講演をもらうということも考えられる。

【事務局長】参考にすることは考えられる。アンケートも同じ項目を採用すれば、両町の違いが俯瞰できる。講師謝礼は当初予算にとってある。

【齋藤委員】12月議会終了後にでも亘理町に伺うことがいいのでは。

【事務局長】事務局同士ですり合わせをしたい。亘理町の結審が12月議会であるので、特別委員会が解散していれば、御面倒でも全委員に出席してもらうように頼むか。

【委員長】全員でなくても。

【事務局長】亘理町と段階的に調整を行ってみます。

【齋藤委員】12月の全協に報告できるようにその前に行ければいい。

【委員長】11月全協議案配付の際に、亘理町に視察に行くことを報告したい。亘理町に行くこといいのか。

(了承の声あり)

【事務局長】亘理町との折衝結果はチームスで報告します。

#### 4 その他

#### 5 閉会宣言 【委員長】

( 15:43閉会 )